



# GOVERNOR'S MONTHLY LETTER 2008-2009



## ガバナーメッセージ

### “ロータリー家族と強い絆で”



国際ロータリー第2710地区

ガバナー 諏訪 昭 登

家族月間によせて

会長、幹事そして会員の皆様 本年度発足から半年近くが経過し、月信を手にする頃には公式訪問も数クラブを残すのみとなります。

各クラブでは暖くお迎え下さり、“心に愛を、実践に情熱を！”の信条でロータリーを熱く語り合うという「夢をかたちに」しながらここまで来ました。また10月開催の地区大会へも予想を上まわご参加のもと、盛会裡に完了し得たことも合わせて、心から御礼申しあげます。

さて今月は「家族月間」です。ここまでの主な沿革を挙げてみましょう。

・1995～'96年度ハーバート・ブラウン会長 11月R1理事会で2月第3週（のちに第2週）を家族と地域社会週間（のちに家族週間）と指定しました。「家庭の平和が地域の平和に、それが国家の平和にとつながるから、健全な家庭を再認識して下さい」

・1997～'98年度グレン・キンロス会長「私たちは世界理解と平和を究極の目的として、その進むべき未来と運命の道筋を描いて来ました。これこそ全世界のロータリアンを、ロータリー家族としてつなぐ唯一の理念であります」

・1998～'99年度ジェームス・レイシー会長「地域社会と子供たちに活動の視点を置こう」

・2000～'01年度フランク・デブリン会長「親たちに親の責任の重要性を説くプロジェクトを手掛けよう」

・2002～'03年度ビチャイ・ラタクル会長「家族は地域社会を築く一つの積み木である。家族の絆を強化するためにはロータリアンが尽力すべし。家族の絆が強まれば地域社会も強化される」

・2003～'04年度ジョナサン・マジアベ会長  
ロータリー家族をRI会長強調事項に挙げ、12月を家族月間と指定しました。（この時点で2月の家族週間は廃止）ロータリアン家族即ちロータリアンの配偶者であったり、お子様、お孫さん、物

故会員の配偶者の方々が第一義としながら、ロータリー家族としてロータリーにかかわる全ての人々を対象としたものです。

・2004～'05年度グレン・エステス会長 前年度RI会長強調事項を引き継ぎ、財団学友、GSE、インターアクト、ローターアクト、青少年交換、RYLA、RCCなど含む、具体的対象を示しています。「ロータリー家族への心遣いの奨励」を強調されました。

・以後2007～'08年度ウィルフリッド・ウィルキンソン会長まで「ロータリー家族」はRI会長強調事項として継続されています。「ロータリー家族が一体となれば、私たちは奉仕と親睦の理念を世代を超えて伝えながら、ロータリーのプログラムを世界中に拡めて行くことが出来る」と強調しました。

・本年度D.K.リー会長は、ロータリー家族をすでに周知のことと判断し、入れておりませんが、従来通りの考え方で今や世界220万人以上のロータリアンと、関連する人々との絆を強化してロータリーの目標と理念の推進に向けて、共に協力することが大切でしょう。

かつて1982～'83年度、向笠広次RI会長はRIテーマとして「人類はひとつ 世界中に友情の橋をかけよう」をかかげました。そして補足として「人類はひとつの大きな家族—すべての人間、すべての国民を含むひとつの大きな家族です。全家族の平和と幸福がなければ、個人の平和と幸福はあり得ません」と語りました。私は、これこそ「ロータリー家族」の概念そのものと考えてここに引用しました。家族月間では「家族」について思いをめぐらせ、家族に対して“愛と情熱”で取り組んで下さい。

ロータリーの最もよいところを挙げるなら、ロータリーは人間の日常生活に適した精神哲学であるということです (P.ハリス)